

指導者 ○○○○○○

2 単元名 理由や例を挙げて、考えを書こう
(教材名) 「もしものときにそなえよう」 光村図書 4年

【単元の目標】

- ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる (知(2)ア)
- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫することができる (思 B(1)ウ)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(2) ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	B (1) ウ 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫している。	積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。

「もしものときにそなえよう」は、災害対策を題材に意見文を書く単元である。（※一人で書くかグループで書くか検討中）本来、さまざまな文献を読んで災害に対する知識を増やすことが第一歩であるが、カリキュラムマネジメントとして社会科や総合的な学習の時間で既に学習を行っているため、情報を組み立て、文章化することが本単元における中心活動となる。知ったことや気づいたことを基に意見をまとめ、理由や具体例との関係を明確にしながら文章に書き表すことで単元の目標にせまりたい。

文献からの「引用」は3年からの学習になるが、既習の学習を振り返り、ルールを押さえ、意見文に記載する。学んだことを学校行事である「うっしっしー祭り」で紹介するなど生活と学びが重なることを意識している。

国語「もしものときにそなえよう」が始まる以前の学習

○社会「自然災害にそなえるまちづくり」では、地震災害に対して市や地域、家庭で備えていることは何かの学習をしたり、神奈川県総合防災センターにて地震体験や地震の歴史、避難所の様子や使っているものについて知ったりすることができた。また、学区にある防災会社の方に災害の怖さや避難所の実態についての講話や校内にある災害用備蓄庫を前自治会連合会長に紹介してもらう学習を行った。今後、小田原市防災対策課の方からも話を伺う予定である。

○総合「もしものときにそなえよう」（単元名は国語と同様）にて、災害にそなえるために知りたいことをまず挙げた。そして、学校図書館の本や小田原市ホームページを参照しながら知ったことをオンライン上のカードにまとめ、「小田原市いっせい総合防災訓練」などで学んだことの紹介や地域の人が知りたいことなどのアンケートを行った。それを踏まえてさらに知識を深めてきた。（カードは以下のようなもの）

疑問 避難するときにペットはどうすればいいの？

答へ 避難先でペットを飼う場合

災害のときにペットはどうすればいいの？

ケージが飼育ケースに入れて避難する。

1. 受け入れるペットの種類は、商業的な犬・猫・小動物をケージか飼育ケースに入れて避難所に行く。そのため、音波から保護されるペットが大切。
2. ケージは避難場所から一歩引いたところに置く。
3. 飼育ケースは避難所が用意しているものを使う。
4. (犬)の飼育ケースは避難所が用意しているものを使う。
5. (猫)の飼育ケースは避難所が用意しているものを使う。
6. ケージ、上では避難所が用意しているものを使う。



私が特に大事だと思うのは、ペットをケージか飼育ケースに入れて避難所に行くことです。と一言でいって簡単ですが、実際にはなかなか難しいことだと思います。災害が来たとしたら、**バニシング**になるからです。

疑問 災害時に犬と一緒にいられるか？ ペットの防災グッズは何を持っていけばいいのか？

答え 命を助ける「動物の心」

愛犬の写真や飼い主の情報

優先順位②

愛犬の顔のアップや全身、飼い主と一緒に写っている写真などを用意しておく。写真の裏に愛犬や飼い主の情報を書いておく」と良い

2月田中・関いた人 ライオンペット株式会社

疑問 （おどろかすこと・うろたえること）

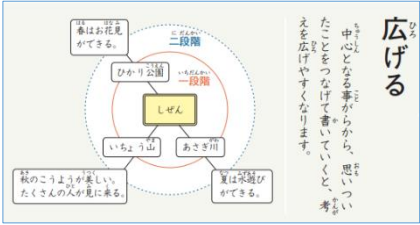
答え （おこたへること・こたへたこと）

避難所ってどんなところ

災害時のときに生活したりするとこ



避難所ある部屋は、
 居所スペース、更衣室、授乳室、育児室、
 物置スペース、安否情報
 掲示板、運営本部、受付、配置図・トイ
 レ、屋外スペース
 （ベット）避難スペース、
 ゴミ集積所、遊び
 場、炊き出しスパー
 ス、洗濯場など

	主な学習活動 代表的な子どもの姿（・）	評価規準
第一次	①学習の見通しをもち、調べた内容を確認する。 ・災害は怖いから家族にそなえかたを知らせたいな。 ・アンケートにあったみんなで助かりたいな。 ・災害が起きる前に確認することを伝えたいな。 ・今までに調べたことを家族に伝えたい。 ・うっしっしー祭りで地域の人に知らせよう。 ・調べた知らせたい内容は何だったっけ。 調べた知らせたい内容を図にまとめる。	自然災害への備えについて問いや課題意識をもち、調べたことと自分の考えが伝わる文章を書こうとしている。【主】（観察・発言） 
第二次	※本来、「テーマを決めて調べ、整理する」という学習があるが、社会科・総合で調べて整理したため省略。 ②作例を読んで、文章の組み立て方を確認する。 作例から「初め」と「終わり」に自分の考え、「中」には理由や例を書くことに気づく。 ・例より理由のほうが書きやすそう。 ・いつもの文章の書き方と同じっぽい。 ・理由と例の差がわからない。友だちに聞かないと。 ③【本時】④自分の文章の組み立てを考える。 調べたことをもとに伝えたい自分の考えを明確にし、それに対応する理由や例を選び、図にまとめる。 ・（本時に書いたため省略） ⑤⑥自分の考えをまとめた文章を書く。 作例から見つけた書き方の工夫を意識する。理由や例が自分の考えの支えになっているのかを確認する。 ・これなら沢山作って知らせられそう。 ・もうちょっと肉付けして詳しく書こうかな。 ・書き出しを先生に聞かないとわからない。 ・このペースなら友だちの相談に乗っていいかも。 ⑦書いた文章を読み返し、推敲する。 ・これなら「うっしっしー祭り」に来る人に伝わるかも。 ・小さい子も見ると説明をつけたほうがいいのかも。	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係性について理解している【知】（記述） 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している【思】（記述） 積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。【態】（観察・記述）
	総合「もしものときにそなえよう」にて、意見文を音読した音声または動画を撮り、「うっしっしー祭り」に向けた掲示物を作成する。	
第三次	⑧文章を読み合い、感想を伝え合う。 単元の学習を振り返る。 ・家で飼ってるペットのことがわかって良かったし、それを家族や地域の人に伝えられてよかった。 ・地震が起きる前に準備することを家族とやろう。知らせてよかった。文章を書くレベルが上がった。	今後の自分の考えを書く場面などを想定し、次にかきたいことを考えようとしている。【主】（観察・記述・発言）

4 児童の実態と《目指す児童の姿》に迫るための手立て

【児童の実態】

- 情報を集めて、組み立てることで文章ができていくことを楽しめる児童がいる。
- 例文や書き出しが示されていれば文章を書ける児童がいる。
- 単元全体の学習過程を見ながら学習の進度を調整できる児童がいる。
- 自分と取り組んでいる内容が同じ友だちと学び、気をつけるポイントを共有しながら学びあえる児童がいる。
- 周りの友だちの学習内容や進度を意識しながら学びあえる児童がいる。

- 必要な情報を抜き出すことが困難な児童、組み立てた後に文章化するときに組み立てと異なる内容で書いてしまう児童が多い。
- 具体的な内容を選び、抽象的にまとめることが苦手な児童がいる。
- 自分が何をどこまでできたのかの状況判断ができず、何をやればよいのかわからないまま、学習を進めてしまう児童がいる。
- 教師の支援待ちになり、自分で教科書等を見たり、友だちに相談したりせずに学びが止まってしまう児童がいる。

《目指す児童の姿》(中学年ブロック)

対話を通してかかわり、判断したり、調整したりする児童

【目指す児童の姿に迫るための手立て(単元を通して)】

- ①身近な事例から課題を見つけ、学びのアウトプットの場を生活上に作ることで自分事にする。
 - ・社会科の教科書(「自然災害にそなえるまちづくり」)から始まり、学区内の防災会社の災害救助の講話、自治会長さんによる校内防災備蓄庫の紹介、防災センター見学を受けて身近な事例から課題を作っていた。また、学びを表現する場を、「小田原市いっせい総合防災訓練」、「うっしっしー祭り」とすることで学びが生活に還元されることを感じやすいようにし、自分事として取り組みやすいようにする。(学びの必然性)
- ②書く(考えることを細分化する)ことで情報を共有する(本時)
 - ・考えたことをウェビングマップ等で書き表すことで教師も子ども同士も相談やアドバイスがしやすくなるようにする。また、調べた内容はICTを活用して共有することで必要な情報を集める支援につながるようにする。(考えの共有化)
- ③学習を計画し、振り返り、調整する
 - ・第1回校内研全体会資料にあるように「日常の学習において学習の見通し・計画・判断・遂行・振り返りといった一連の思考過程を児童自身が意識」して学ぶことを毎時間行うことで、「主体的に学習に取り組む態度」への指導を意識し、子どもの判断、調整する場を保証する。(判断、調整する場)
- ④教科書の学習の流れ、資料を活用する
 - ・教科書の学習の流れを基本とし、資料についても基本的に教科書のものを参照することで子どもたち自身で学習を行うことができるという目安をもてるようにする。教師が発問や介在をしなくとも進められる環境を作ることによって判断したり、調整したりする力を育てていく。(水平的な関係性)

※「4つの手立て」以外の授業の枠組み

- ・各時間ごとに児童が、その時間の学習の目標を立てて、学習課題に取り組んでいく。授業の最後に、その時間の学習の振り返りをする。(学習課題は、教科書に記載されている学習の流れに準ずる)
- ・学習の進度は児童によって違うため、先に進んでいる児童もいれば、さかのぼって考えなおす児童もいる。そのため、単元計画の主な学習内容はあくまで目安となる。
- ・学習への取り組み方は、個人で行ってもよいし、グループで行ってもよい。
- ・教師は全員で確認すべきと判断した内容がある場合、全体指導を行う。



研究テーマ
学び合い、高め合う子どもの育成
～自ら考え判断し学んでいこうとする児童の姿をめざして～

5 本時について（3／8時間）

【本時目標】

自分の考えを明らかにし、それに合った理由や例を選んで、組み立てを考えることができる。

【本時展開】

学習のめあてと活動 教師の関わり（○）、子どもの姿（・）	支援・留意点（・） 評価（○）【評価項目】／方法
① 学習のめあてを確認する。 ○自分の考えが伝わりやすい文章の組み立てを考えよう ・理由を挙げて説明しよう ・例を挙げて説明しよう ② 本時の学習計画を立てる。 大計画シート（資料1）を見ながら、どんな学習内容のどのように学習するのかを計画する。 ・考えは選べたけどまだ理由が選べていないから一人でやって、難しかったら友だちとやる。 ・考えは書けたけど、考えが例とつながっているかわからないから友だちに見てもらって組み立てを完成させたい。 ・考えと例は組み立てられたから、教科書を見ながら文章をきちんと書きたい。 ③ 計画に基づいて学習を進める。 ア．自分の考えに合う理由や例を選び、書く。 イ．自分の考えと例、理由の内容の組み立てを考え、書く。 ウ．自分の考えと例の内容の組み立てが終わり、文章にする。 ・必要なものを用意する。 水は一人2L使うから。 ・飼い主の情報を準備する。 はぐれたときに分かるように。 ・171の練習をする。 家族と連絡を取るために。 ③ 本時の学習を振り返る。 自分の学んだこと（学習内容）や自分の学び方（学習方法）について本時の学習を振り返る。 ・自分の考えにあった理由を選べなかった。理由が足りなかったから次の時間に考えたい。 ・自分の考えにあった理由を選ぶことができた。友だちに相談して確認してもらえた。 ・自分の考えと例を組み立てて、文章を書き始められた。自分で集中してできた。 ・自分の考えと理由を、順番を意識して組み立てることができた。友だちの相談にできてうれしかった。	・前時までに、災害に対する備えをまとめたカードを作成し、オクリンクで情報共有できるようにする。また、調べた情報をウェビングマップにまとめる。 ・書けたら班の人か教師に見せてから学習を進めるようにする。 ・グループの中で次の時間までに全員が組み立てを終えることを目標とすることを伝える。 ・課題のある児童や、この単元につまずきが見られる児童には特に留意し、必要に応じて個別指導を行う。 ・個別指導の中で学習上大切なポイントを把握していき、必要に応じて全体に対して端的な発問や一斉指導を行う。 （前時目標） ○自分の考えと、考えが伝わるような理由や例を考え、組み立てを考えている（発言・記述） （本時目標） ○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして、書き表し方を工夫している。 【思】（記述）